

- 自ら学び・考え、ともに高め合える授業の実践
- ねばり強く学習に取り組む態度の育成

学力向上推進員 中磯 千佳子	委員 校長:多喜川広伸 教頭:福島明子 教頭:田村卓也
	教務:宮原麻夕子 特支主任:佐野恭子 1年主任:森本尚美 研修・2年主任:古川智子 3年主任:森下久美 4年主任:鈴木真砂子 5年主任:福本淳子 6年主任:品川麻衣子

多喜川広伸

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や校内研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に前向きに取り組む児童が多く、基本的な学習内容は定着している児童が多い。 ●活用や説明する問題は苦手の児童がいる。また、学力の二極化が進んでいる。	・学習の構えができ、ともに学び合いながら該当学年の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	・学年ごとに漢字テストを実施し、漢字の定着を図る。 ・算数補充プリントを活用する。必要に応じて前学年の学習内容の補充を行う。 ・「羽小っ子の学習ルール」を各教室に掲示し、学習規範の徹底を図る。	取り組み継続	・小テストを行ったり、タブレットのドリルパークを活用したりして漢字の定着を目指し成果も見られたが、定着度には二極化が見られた。 ・低学年では、学習ルールが身に付いてきた。	・TTと連携し、個別の指導の充実や授業の改善を図る。 ・朝活の時間を有効に活用し、国語や算数の基礎基本の定着を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○創作活動などに継続的に取り組んできたため、豊かな表現力を身に付けた児童が育っている。 ●自分の考えや意見を進んで表現する児童は限られている。また、語彙が少なく、分かったことや自分の考えを書き表すことが苦手の児童が多い。	・語彙力・読解力を高め、自分の思いや考えを進んで表現し合うことができる。 ・調べ学習や話し合い活動においてタブレットを用い、考えを深めたり、友達の考えを理解したりできる。	・ホワイトボードや付箋・タブレットなどの活用、話し合い形態の工夫や手引き書の作成などで言語活動の充実を図る。 ・授業や集会活動などで、自分の思いや考えを発表したり書いたりする機会を多く作る。 ・読書の時間を定期的に設け、読書活動を推進する。	取り組み継続	・行事ごとに振り返りを書いたり、教科書の例文を参考に自分の表現に活かしたりさせることで書く力が付いてきた。 ・タブレットを活用し、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりして学びが深まってきた。 ・朝活での読書や図書室の利用などにより、読書に親しむことができた。	・語彙力を高めるために、学習した日に「わたしの暮らし」の日記の欄を活用する等、意味調べや例文作りの機会を取り入れる。 ・友達と対話的に学ぶために適したタブレットの活用場面を教材研究し、自分の考えを深めたり広げたりすることにつなげる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習に取り組む、与えられた課題に真面目に取り組む児童が多い。 ●自分から課題を見付けたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服しようとしたりする児童が少ない。	・見通しをもって、ねばり強く課題や家庭学習に取り組む、高め合うことができる。	・「家庭学習ガイドブック」の周知・活用、「家庭学習チャレンジシート」により、自主的・主体的に家庭学習に取り組む態度を育成する。 ・「羽小授業モデル」に沿った授業を展開し、児童が本時や次時の課題を明確にもてるようにする。	取り組み継続	・「家庭学習チャレンジシート」は、保護者への意識付けや児童の学習意欲の向上に有効な面があった。 ・自主学習ノートを活用し、苦手の内容や難しい問題に意欲的に取り組む児童が増えた。	・「チャレンジシート」の内容を見直す。今後も家庭と連携して進めていきたい。 ・「羽小授業モデル」を見直し、周知徹底を図る。

令和5年度 学力向上ロードマップ

